



## 主張

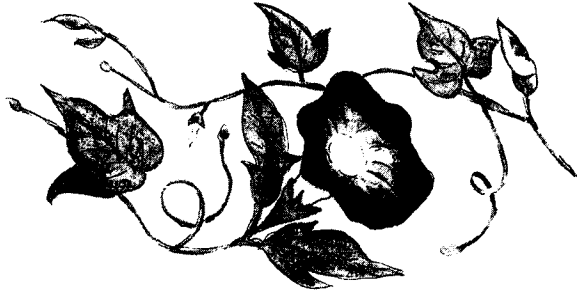
# 現行学習指導要領と次期改訂の新しい方向性を踏まえて

柴内 靖

「この発問では、生徒の多様な道徳的価値観がでないのでは？」「活発な議論ができるだろうか？」「他の教科との関連はどうか？」。これは、本校での職員室内での会話の一場面です。これらの様子は、「道徳の時間」が道徳教育の要であり、道徳教育は全教育活動の中で行うもの、さらに「特別の教科 道徳」としての本格実施を踏まえ、教員がしっかり意識していることを表しています。

平成二十年三月に告示された現行学習指導要領が、平成二十四年四月から完全実施となり本年度で五年目を迎えます。各学校では、学習指導要領に基づき、教育課程に具現化し、特色ある教育実践が順調に行われ、更なる充実に向けて取り組んでいることとします。

各学校では、現行学習指導要領の教育課程上のキーワードである「生きる力をはぐくむこと」「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「主体的な学習態度の育成」「言語活動の充実」「学習習慣の確立」「伝統や文化に関する教育」などを踏まえ、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指し、各教科の授業において、主体的な取組を全面に出した授業、小集団による話し合いや発表する場面を増やすなどの言語活動の充実、他者・社会・自然と関



わる体験活動の重視など、創意ある教育実践が行われています。また、道徳教育では、「道徳の時間」を要として、様々な体験活動と関連付けながら、郷土資料を含めた効果的な資料の活用や地域人材の活用などにより道徳的価値の内面的な自覚を深める工夫が行われているのではないのでしょうか。さらに、「特別の教科 道徳」として、平成三十一年度から本格実施となることを踏まえ、「考え、議論する道徳」への質的転換を図りながら、実践を行っている学校も多いと思います。

そのような中、昨今教育改革の動きが著しく、昨年八月に、次期学習指導要領改訂に向けた論点整理が発表され、社会に開かれた教育課程を実現するための学習指導要領の在り方がとりまとめられ、加速度的に変化する社会を踏まえ、育成すべき資質・能力の明確化、学習・指導方法の改善、カリキュラム・マネジメント等が示されました。この方向性は、これまでの学校における教育実践を否定するものでなく、「生きる力の育成」「言語活動や体験活動の充実」などの視点は継承しつつ、自ら人生を切り拓くために必要な資質・能力、アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導改善等が新たに示されています。

我々校長は、教育課程編成の主体は学校であることを再認識し、これらの教育改革の新しい方向性を踏まえつつも、これまでの教育実践の成果や課題、子供たちの実態等を踏まえ、教科横断的な視点やP D C Aサイクルの実施により、特色ある教育課程の編成や授業改善を着実に進めていくことが「カリキュラム・マネジメント」であり、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の理念であることを意識して取り組むことが大事ではないでしょうか。

(全日中副会長・千葉県佐倉市立佐倉中学校長)